

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 たねのね		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 14日		2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年 1月 14日		2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2026年 1月 14日		2026年 2月 20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者の思いや学校、保育園の先生方の思いや取り組みについて、丁寧に情報共有を行っています。できる限り現場やご家庭で実際に実行可能な手立てを提案できるよう工夫を重ねています。	保護者や先生方の表面的な言葉だけではなく、本当に伝えたいことや、行動の裏に隠れている課題等について丁寧に聞き取り、多角的な視点で見立てていくことができるよう、取り組んでいます。	情報共有のための、標準化されたツールを活用できるよう、整備を行います。実行可能な手立てに対する事例をまとめ、状況に応じて適時適切な提案につなげていきます。
2	支援の背景にある先生方の思いや、日々の実践で大切にされている価値観を丁寧に聞き取り、一方的な助言とならないよう敬意もった関りを大切にしています。	訪問先の状況や先生方の悩み・工夫を丁寧に受け止めたうえで、必要な支援方法を一緒に考える姿勢を大切にしています。	「先生が大切にしていること」「困りごとの背景」「子どもの見立て」など、聞き取りの軸を整理し、スタッフ間での共有にばらつきが出ないように取り組んでいます。
3	訪問支援において、支援の中心に子どもを据えるという大前提を大切に、その視点を先生方と丁寧に共有しながら支援を進めています。	先生方がどのような思いで日々の保育・教育に取り組まれているのか、その背景を時間をかけて聞き取り、考え方の方向性や子どもの捉え方に寄り添いながらアプローチしているよう努力しています。	子どもの行動の背景や発達の視点を、保育者に伝わりやすい言葉でまとめた資料を適時作成し、必要に応じて活用できるよう取り組んでいます。子ども中心の観察軸をスタッフ間で統一し、訪問の質のあていにつなげていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援という特性上、限られた時間での関わりとなるため、訪問先の状況に深く入り込めない場面があります。より具体的な支援の提案や、直接的支援の内容が課題として挙げられます。	訪問支援は短時間での関わりが中心で、日常の細かな変化を追いにくいことや、園や学校の状況を事前に十分に把握することが難しい点が挙げられます。子どもの状態がその日によって大きく変わることもあり、観察や提案の難しさを感じます。	訪問日以外のタイミングでも情報交換できる仕組みを整えていければいいと考えています。「次回の観察ポイント」を明確にする、成功した支援アイデアをスタッフ間で共有していく等の工夫に取り組んでいます。
2	観察の視点や提案の組み立て方にばらつきが生じることがあり、支援の質を安定させるための工夫が必要だと感じています。訪問先の状況を短時間で把握し、実行可能な手立てに落とし込む技術については、今後さらに磨いていく必要を感じています。	観察の軸の統一が追いついていないため、着目点が観察者によって異なることもあります。提案の組み立て方等、事前に丁寧にスタッフ間で共有する時間を確保することが必要です。	観察の着眼点や、提案の流れなどのおおらかなマニュアルの作成に取り組み、安定した質の高い支援につなげていきます。
3	事業所に通所されていないおこさまに対しての、信頼関係の構築に難しさを感じています。訪問時に安心した気持ちで受け入れてもらえるような手立てを増やしていく必要があります。	技術の不足により、訪問の時間の短さから、関係づくりに十分な時間が取れないことや、通所児のように日常的な関わりがないため、安心感が育ちにくいことも要因だと考えています。	訪問前に“顔がわかる”工夫や、子どもが安心しやすい関わりパターンを増やしていきます。